

令和7年度 保育士自己評価チェックリスト

保育所保育指針では「保育所は、保育の質の向上を図るため、保育の計画の展開や保育士などの自己評価結果を踏まえ、当該保育所の保育の内容などについて自ら評価を行い、その結果を公表するよう努めなければならない。」ことが明記されています。このことに基づき当園では毎年自己評価をしております。評価の結果を踏まえ今後もよりよい保育を提供できるよう努力していきます。

A：理解して十分に取り組んでいる。B：概ね取り組んでいる。C：理解が不足し十分に取り組んでいない。D：取り組めていない。

		A	B	C	D
総則	入園しているこどもの最善の利益を考慮して保育にあたっていますか。	68%	32%		
	全体的な計画に基づき、保育目標を定め保育を行っていますか。	47%	47%	6%	
	こども一人ひとりの人権を尊重し、愛情をもって保育にあたっていますか。	84%	16%		
	自らの人間性や専門性の向上につとめ、豊かな感性を磨く努力をしていますか。	32%	68%		
保育理念・目標	園の保育方針を理解している。	58%	42%		
	園の保育方針や目標に基づいてクラスの年間保育目標を立てている。	63%	26%	11%	
	グループの担当間で話し合あって、保育目標を立てている。	42%	53%	5%	
	自らの保育を振り返り、向上や改善に努めている。	47%	53%		
保育の内容	保育や生活の中で、「ねらい」や「内容」が達成されるよう配慮している。	47%	53%		
	こどもの発達歴や心身の発達などを考慮する関わりが出来ている。	58%	42%		
	着替えを援助する時は、無理やり脱がしたり、着せたりしていない。	63%	32%	5%	
	こどものやる気を見守りながら、できない部分を援助している。	68%	32%		
	生活やあそびの中で、こども自身が選択できるような問いかけをしている。	58%	37%	5%	
	こども一人ひとりの思いに耳を傾け、否定せず受け止められる。	47%	53%		
	こどもたちが日々過ごすための安全な環境や適切な衛生状態に努めている。	68%	32%		
	保育室の整理整頓に努め、いつも気持ちの良い保育づくりを心がけている。	58%	37%	5%	
養護に関するねらいと内容	登園時のこどもの健康観察を行っていますか。	79%	21%		
	登園時、泣くこどもに対して、放っておいたり、叱ってしまう事がないようにしていますか。	84%	11%	5%	
	こどもとの温かなやり取りや、スキンシップを常に心がけ、こどもの心の安定につなげていますか。	84%	16%		
	温かい受容的な雰囲気や関わりが、こども自信や自己肯定感を育むことを理解して、保育をしていますか。	79%	21%		
	「だめ」「いけません」など制止する言葉を不必要に用いないようしていますか。	42%	53%	5%	
	こどもが活動しやすいように、その都度、室内の温度や湿度調整、換気チェックをしていますか。	68%	32%		
	園庭や散歩など戸外であそぶ機会を目的をもって取り入れていますか。	68%	32%		
	保育士が率先して体を動かすなど、こどもがその楽しさを体験できるよう配慮していますか。	53%	47%		
	年齢に応じて、食事の前や排せつ後の手洗いなど、清潔の習慣が身につくように援助していますか。	84%	16%		
	こどもの食事の様子を把握し、無理のないよう援助ができていますか。	69%	26%	5%	
	こどもが見通しを持って意欲的に行動できるようにするとともに、快適に生活するための約束事を、わかりやすく伝える工夫をしていますか。	58%	42%		

教育に関するねらいと内容	危険に気づいて行動できるよう、安全についての心構えや約束を日頃からしていますか	58%	42%		
	つまづきや葛藤、けんかななどをこどもの発達に欠かせないものとして捉え、対応していますか。	74%	26%		
	困っている友だちのことを心配するなど、思いやりを持てるよう援助していますか。	58%	37%	5%	
	なかなか寝付けないうちを部屋から出したり、布団を隅に敷きなおしたりしていませんか。	68%	16%	16%	
	保育士はこどもにとって最も身近な人的環境であるとともに、すべての言動がこどもにとって見本になっていることを常に意識していますか。	47%	53%		
	こども同士が力を合わせて取り組む姿や、協力あそびを展開させていく姿を十分に認め集団意欲を高められる仲立ちができていますか。	63%	32%	5%	
	こどもが思ったことを相手に伝えたり、相手の思いに気づけるような保育（関わり）をしていますか。	68%	32%		
	身近な自然に触れ、どうしてという疑問に対して美しさや不思議さに気づける配慮し「なぜ？」という疑問に対して一緒に考えたり調べたりしていますか。	58%	37%	5%	
	毎日の生活の中で、図形や数量、前後左右、遠近など位置の違いや時刻などに関心がもてるような関わりをしていますか。	42%	11%		
	信頼できる相手に伝えたいという気持ちが発語を促すことを理解し、こどもと関わっていますか。	74%	26%		
	こどもの表情や姿をよく観察し、その場に応じた言葉かけをしていますか。	74%	26%		
	こどもがわからないことを尋ねたり、楽しい経験を伝えるなど安心して話せる雰囲気を作っていますか。	74%	26%		
	様々な色・形・手触りに気づき、感触の違いを感じる機会を作っていますか。	53%	47%		
	糊・ハサミなどいろいろな道具の使い方を一人ひとり丁寧に伝えたり見守ったりしていますか。	63%	37%		
	一人ひとりの園での様子など、職員間で連携をとり、職員全体で見守る体制ができていますか。	74%	21%	5%	
保育の計画及び評価	全体的な計画は、園の理念、方針、目標に基づき、こどもの発達過程を踏まえて、教育・保育の「ねらい」「内容」が総合的に展開されるよう編成されていますか。	42%	47%	11%	
	こどもの発達過程を理解して、人間形成の基礎を養う時期であることを十分に認識して作成していますか。	58%	32%	10%	
	一人ひとりのこどもの発達過程や状況、クラスの実態について、職員の共通認識の基に作成していますか。	53%	37%	10%	
	記録を踏まえて、指導計画に基づく教育・保育を見直し、改善を図っていますか。	47%	42%	11%	
	その日あった出来事や気になるこどもの様子などを、他の職員と共有することができていますか。	74%	26%		
	指導計画（年間・月・週）が実際のこどもの姿・心情・意欲・態度に合っているか、自己の保育を振り返り、反省評価をしていますか。	53%	42%	5%	
	指導計画の反省評価は、次の指導計画（年間・月・週）作成に反映できるものとなっていますか。	53%	37%	10%	
健康と安全	こどもの日々の健康状態を把握し、それを一人ひとりの保育に活かしていますか。	74%	26%		
	こどもが危険な場所・危険なあそびがわかり、安全に気をつけて行動できるように伝えられますか。	79%	21%		
	トイレに行くことをせかせせたり、強要したりせず一人ひとりの排泄の欲求に合わせるようにしていますか。	58%	32%	10%	
	こどもが落ち着いて食事・おやつを楽しめるよう雰囲気作り配膳・下膳の手伝いなど食事に興味をもてる工夫をしていますか。	53%	47%		
	こどもたちが、自然の恵みとしての食材や調理する人への感謝の気持ちが育つよう心掛けてしますか。	47%	47%	6%	
	誤飲・誤嚥に繋がることのないよう、職員同士連携を図り、見直すことができていますか。	74%	26%		

食 育	給食を楽しんで食べることができる工夫をしていますか。	58%	37%	5%	
	こどもの食生活が充実するよう、保育士と栄養士とで連携して食育活動をすすめていますか。	47%	53%		
	食育活動と保育内容は連動され、適切に実施されていますか。	47%	47%	6%	
	食物アレルギーのこどもに対し、個別の配慮が適切になされていますか。	84%	16%		
	一人ひとりの食事量に配慮し、無理強いすることなく安心して食事がとれる環境になっていますか。	68%	32%		
保 護 者 に 対 す る 支 援	送迎の際に、保護者と必ず言葉を交わすようにしていますか。	84%	16%		
	一人ひとりの保護者と必要に応じて個別に面談を行っていますか。	47%	47%	6%	
	家庭との信頼関係が築けるノートの書き方をしていますか。	53%	42%	5%	
	保護者が子育ての悩みや心配事などを、安心して話せる存在になるよう心掛けていますか。	63%	37%		
	あなたの保育に批判的な保護者に対しても丁寧に、意見や要求を受けとめようと努力していますか。	53%	47%		
職 員 の 連 携 資 質 向 上	保護者からの相談内容などを、担任一人の問題にしないで園全体で受け止めようとしていますか。	79%	21%		
	職員会議などでは、こどもの最善の利益を尊重して発言していますか。	47%	42%	6%	5%
	園の内外における研修・研究活動及び自己研鑽により、専門性を高める努力をしていますか。	11%	63%	21%	5%
	職員同士の信頼関係、保護者との信頼関係を深めるための努力をしていますか。	68%	32%		
	自分の保育を振り返り、課題や問題点を見つけるとともに、その中で生じた疑問や悩みを上司や同僚に相談することができますか。	68%	32%		
保 育 士 の 責 務 ・ 適 切 な 保 育 の た め に	一人ひとりのこどもの活動や姿をしっかりと記録に留めることができますか。	47%	42%	11%	
	毎日笑顔でこどもや保護者、同僚に接するよう心掛けていますか。	79%	21%		
	こどもとよく遊び一緒に楽しんでいますか。	74%	26%		
	こどもの発達に合った手作りおもちゃなど、創意工夫を惜しまず、保育に取り入れていますか。	32%	63%	5%	
	こどもの自発性や発想を大切にし、こどもが主体的に活動できるよう適切な援助・環境構成を心掛けていますか。	37%	63%		
	こどものこと、クラスの様子や出来事、保護者の様子など適宜に園長や主任に報告連絡相談をしていますか。	68%	32%		
	こどもの名前を呼び捨てにするのではなく、〇〇さん〇〇ちゃんなど丁寧な呼び方をしていますか。	63%	32%	5%	
	こどもの個人情報を適切に扱うとともに、園内で知り得た事柄や情報に対して守秘義務を遵守していますか。	89%	11%		
	こどもの一人ひとりの人権を尊重した関わりをしていますか。	68%	32%		
	物事を強要するような関わり、脅迫的な言葉かけはせず、こどもの気持ちに寄り添った保育がされていますか。	58%	37%	5%	
	こども一人ひとりの育ちや家庭環境へ配慮したかわりができていますか。	79%	21%		
	特別なニーズ（外国籍・経済的困難・養育困難等）を有する家庭への支援について職員間で情報共有し配慮していますか。	79%	16%	5%	

(総評)

- ・自己評価としてこのチェックシートと人権擁護のためのチェックリストの両面で行い、自分の保育を振り返り、見直すことができています。
- ・全体として、子どもたちが安心して過ごせる保育環境ができています。しかしながら、自分自身に余裕がなくなると、感情的な言葉かけになったりすることもあるので、常にことば掛けには気をつけていくこと。
また、一人ひとりの性格、発達の個人差を見極め、今何がこの子にとって必要なのかを考え、担任・保護者間での連携を密にとり関わっていけるようにしたい。
- ・強要するようなことば掛けをしていないが、こどもに取っては強要されているように感じているこどももいるかも知れないと感じる。こども自身が意欲をもって取り組んでいけるような保育を心掛けていきたい。
- ・食事面で、食べさせることに一生懸命で、楽しんで食事をさせることができていないこともある。楽しい食事を工夫していきたい
- ・未満児は、特にことばにできない思いをいち早く気づいていけるような保育を心掛けたい。

保育所・認定こども園等における人権擁護のためのセルフチェックリスト

～「子どもを尊重する保育」のために～ 総評

セルフチェックシートを記入し、気づいたことを記入する。その結果を踏まえ、今後自らどのように保育に取り組むことが必要だと考える、5つのカテゴリーに分け一人ひとりが記入した。

(1) こども一人ひとりの人格を尊重しない関りについて

忙しくなると、つい「ちょっとまってね」「あとでね」と言ってしまう反省する。状況を判断し、できることはその時に対応できるように心掛ける。

ケガに繋がるような危険な時はつい大きな声が出でしまうが、成長過程に配慮し、根気強く関わっていく。

(2) 物事を強要するようなかかわり、脅迫的な言葉かけについて

思うように保育が進まなかったり、こどもが行動しない時は、「〇〇しないと～できないよ」などの言葉かけをしていることもある。褒めたり、分かりやすいことばかけに置き換えながら、こどもたちが、意欲をもって自ら行動できるような方法を心掛けていく。

(3) 罰を与える・乱暴なかかわりについて

罰や乱暴なかかわりは、決してあってはならないことは全職員が認識している。

危険が予測されるときは、ついこどもの腕をもって制止してしまうこともある。冷静に対処しながら気持ちや活動に余裕をもって関わっていく。

(4) 一人ひとりの子どもの育ちや家庭環境を考慮しないかかわりについて

保護者支援は保育士の大切な業務であることはみんな理解している。どんな保護者であっても否定的なことば掛けや態度をとってはならない。まずは受け入れていくことが大切。

日頃から、保護者から相談しやすい雰囲気づくりを心がけ、信頼関係を築けるようにする。

(5) 差別的なかかわりについて

大人の差別的な行動や言葉は、こどもに差別的な意識を持たせていくことになる。

差別的な関りは、どんなに小さなこどもも敏感に感じ取ってしまう。こども一人ひとりが安心して過ごせるような保育をしていきたい。

このセルフチェックリストは、毎年全職員が行っています。行う度に、自身の言葉かけにドキッとしたり反省してしまうことが多くあります。

こどもたちの成長過程を十分に把握し、一人ひとりを大切にしたい保育を常に心掛けていくことが必要だと痛感します。

ついその場限りになってしまうことがないよう、心掛けていきたいと思います。